

今までの授業

①知識技能の観点において、英文を読む基礎となる語彙力を身に着けるため、繰り返し単語を発音する機会を与えたり、単元の終わりに単語テストを行ったりしている。1・2学年はラウンドシステムを取り入れることにより、教科書本文を音読する回数を多く設定している。

②思考判断表現の観点において、2・3学年は単元の終わりに習った文法事項を使って自分の意見を書く練習を行っている。

③主体的な態度において、視覚的に英文をイメージできるよう各学年でICTを取り入れて授業を行っている。

今回の調査結果

1 学年
授業アンケートでは、「分かりやすく、みんなの理解をたしかめながら授業がおこなわれていますか。」の項目において99%であった。

2 学年
授業アンケートでは「生徒の理解を確かめながら授業が行われている」の項目において肯定的な意見が99%であり、その他5項目は100%であった。

3 学年
授業アンケートで「目標がはっきりしている」「分かりやすく楽しい」「工夫がされている」「指示が明確」の項目でそう思わないが0%であった。

課題

1 学年
授業アンケートの結果を踏まえ、自分の考えを伝え合う授業を行う。

2 学年
少人数授業という特性を生かし、生徒の理解を一人ずつ確かめながら授業を行う。授業アンケートで全ての項目の「そう思う」の割合を8割後半から9割にする。

3 学年
授業アンケートで「板書や視覚的な工夫がされている」の項目で約16%がどちらかといえばそう思わないと答えていた。スライドの使用や、アクティビティを取り入れ、より分かりやすく興味をもてる授業を行う。

授業改善の具体的な方策

第1学年

【授業を改善すること】

- ① 知識技能：単語の音と意味は理解できているが、スペルを書くことのできる生徒が少ない。小テスト前に、何度か本番を想定したプレテストや授業中に練習時間を与えているが、20問中15点の合格水準まで取れる生徒は、2割程度であった。今後も単語練習を強化して指導に当たる。
- ② 思考判断表現：ALTと交えての会話を中心とする活動においては、自分の表現を使って話せており、評価においても8割以上とっている生徒が多くいる。
- ③ 主体的：学習端末を選ぶ指導を行い、自らの課題に応じて学習できる環境を整えている。

第2学年

【授業を改善すること】

- ①知識技能：単語は発音でき意味も分かるが、そのスペルを書くことのできる生徒が少ない。1学期期末テストで”four”と書く解答があったが、正しく書くことのできた生徒は5割程度であった。発音した後に書く練習をし、机間指導を行う。
- ②思考判断表現：上記で述べたように語彙力を向上し、自分の意見をスムーズに英文で書くことのできるようにしたい。決まったフレーズを教え、まずは型に沿って書くことのできるよう机間指導する。
- ③主体的：教科書本文をイメージしやすくなるよう、引き続きデジタル教科書を使用する。

第3学年

【授業を改善すること】

- ①知識技能：単語を書く力が低い生徒が多いため、単語テストでできなかったものをノートに書かせるなど、新出単語の定着ができるように指導していく。
- ②思考判断表現：1学期を通して、自分の考えを短文で書く力はついてきているので、2学期は都立入試を意識させ、3文で書く力をつけさせたい。単元毎に意見や感想を書く機会を設けたり、毎日行っているペアトークで話したことを3文で書くように指導していく。
- ③主体的：文法の導入時にスライドを見せて反復練習を行い、より多くの英文に触れさせる。